

ぶらりわが街宮沢界隈

(47) 路傍(ろぼう)や寺社などで見かけた? -11-

宮沢界隈をぶらり散歩や寺社への参拝で、気になるが調べようがない、知っているようで知らないなどの疑問の幾つかを記してみました。

◎ **稲荷社の例祭、初午祭**(はつうままつり・はつうまい) 旧暦 2 月初午の日です。初午は奈良時代に元明(げんめい)天皇の勅使(ちよくし)によって、秦伊呂具(はたのいろぐ)が和銅 4 年(712) 2 月、稲荷山(三ヶ峰)に 3 社の神を祀り、この初めての「神参り(かみまいり)」をした日が 2 月の初午の日にあたり古くからこの日に伏見稲荷神社に参拝することを「福参り」と称し、稲荷信仰の中で重要な日になっています。平成 31 年(2019)は初午の日は 2 月 2 日です。(※ (43)宮沢町の地縁的集団「講」(こう)記載)



東の丘児童遊園地内「神明稲荷神社」

◎ **稲荷「いなり」の名称** 多くの説があり、稲刈(いねかり)、稲荷(いな)、稲生(いななり)が転訛(てんか)して稲荷(いなり)となったとも言われ、伏見稲荷神社の御神像「宇迦之御魂神(うかのみたのかみ) * 五穀(食物)をつかさどる神」が稲を荷(いな)った姿であることから稲荷と書かれるようになったとも言われています。

◎ **どんど焼き** 小正月(1 月 15 日)の行事で、正月の松飾り、注連縄(しめなわ)、縁起物など家々から持ち寄り、一箇所に積み上げて燃やすという、全国各地に広がる火祭り行事です。宮沢町の諏訪神社は、市域一番規模で新春恒例行事として、毎年「成人の日」に実施。平成 31 年 1 月 14 日済。



宮沢町諏訪神社の「どんど」焼き

一般的には、田んぼや空き地に長い竹「おんべ」や木、わら、茅(かや)、杉の葉などで作ったやぐらを組み松飾りなどと一緒に燃やし、残り火で細い竹や柳の木にさした団子・餅を焼いて食べれば、その一年間健康でいられるなど言い伝えられ、無病息災、五穀豊穰、家内安全を願う意味と、正月に家に迎えた年神様が浄化の災いを煙と一緒に天

に昇るのを見送るという意味などがある民間の伝承行事です。

・「**どんど**」の名称の由来 一火が燃えるのを「尊(とうと)」とはやし立てることから、その言葉が訛(なま)ったとか、どンドン燃える様子からついた名称とか言われています。

・「**どんど焼き**」の起源 平安時代の宮中行事「左義長(さぎちょう)」が元になったと言われて、青竹と毬杖(まりつえ=長い木槌のようなもの)を結びその上に扇子等を置いて謳(うた)い囃(はやし)しながら焼く小正月の火祭り行事。これが形を変えて現在に伝わってきたと言われています。どんど焼きは火災を恐れて徳川幕府が禁止した影響もあり、東京での開催は少なくその中でも続けている主なものは、鳥越神社(台東区鳥越)規模は都内の神社で一番、新宿花園神社(新宿区新宿)・二子多摩川緑地公園(世田谷区鎌田)など。(※ (32)宮沢界隈 Event Calendar・(イベントカレンダー) -1-に記載)

◎ **旧昭和町の現存剣道場「敬天館」** 一元市長伊藤傳彦宅庭内(宮沢町 2-35-20)



「敬天館」剣道場

市制施行の 2 年前の昭和 23 年(1948)3 月、当時の昭和町の中心であった八清ロータリーの現、玉川会館(玉川町 3-10-15)に昭和町警察署が開設、「敬天館」は署内に警察官の剣道場として建造、昭和 35 年(1960)7 月、昭島警察署新庁舎(上川原町 1-1-1)移転し、さらに跡地に玉川会館建造により「敬天館」は、伊藤宅邸内に移築されました。現在もそのまま剣道場として使用され、稽古で竹刀の触れ合うなどの音の響きが、湧き水の流れと黒塀にマッチしています。

* 参考文献・資料 - 「昭島市史」(昭島教育委員会) ウィキペディア等

(文・写真)防犯宮沢支部 西山 禎一